

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	ふあいんど千種園			
○保護者評価実施期間	2024（令和6）年9月10日		～	2024（令和6）年9月23日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	6
○従業者評価実施期間	2024（令和6）年9月10日		～	2024（令和6）年9月30日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2024（令和6）年10月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多彩なプログラムを提供している	当園独自で考案したオリジナルプログラム「ふあいんど100」の活用により、子どもたちに多種多様な経験を得る機会を提供している。	定期的にプログラム内容を更新し、いつの時代にも必要とされる核となる分野と、時代に合わせて経験しておくべき分野を網羅するように工夫を重ねていく。
2	丁寧なフィードバックによる高い満足度	SNSや広報の定期発行により、園全体としての取り組みを発進するとともに、連絡帳を活用して子どもたち一人ひとりの詳細を共有している。 また、保護者参加型のプログラムを提供するなど、子どもの園内の活動を知る場を提供している。	園からの情報発信だけでなく、保護者が求める情報を丁寧にくみ取ってフィードバックする体制を構築していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障がいのない子どもと活動する機会が少ない	外出プログラムは人気であるものの、子どもの安全を重視するため第三者との交流には慎重になっている。 夏祭りなど近隣の協力を得て行うイベントも用意しているが、大規模なイベントは安全確保のために開催回数が限られている。	近隣地域との交流の場を増やすべく、小中規模の交流イベントを企画していく。
2	保護者を直接支援する場が少ない	子どもに対するプログラムの充実を優先しており、子どもを受け入れることによるレスパイトケアが主となってしまっている。 保護者参加型プログラムも保護者の負担軽減となっているわけではない。	より多くの保護者に保護者会への参加を促すことで、保護者の声を聴き、寄り添う場を充実させていく。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6 年 10 月 1 日

アンケート期間:令和 6 年 9 月 10 日～令和 6 年 9 月 23 日

事業所名 ふあいんど千種園

保護者等数(児童数) 9

回収数 6

割合 67 %

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	6					
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	6					
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5			1		
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	5	1				
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	5	1				
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4	2				
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	6					
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		2		4		
保護 者へ の 説 明 等	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	6					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	6					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	3			3		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	5			1		
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4	1		1		
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4	1		1		

	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	4	2				
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	5	1				
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	6					
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	6					
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	6					
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6					
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	6					
	23	事業所の支援に満足しているか	6					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6 年 9 月 30 日

公表:令和 6 年 10 月 1 日

事業所名 ふあいんど千種園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2		個室が無いので、事務所や相談室が個室変わりとなっている。
	2 職員の配置数は適切である	2	4	利用児の特性に合わせて配置は考えている	足りないと感じる日がある。送迎時に添乗が必要な日がある。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2	ほぼバリアフリーではある	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		清掃・消毒は毎回行うようにしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		朝礼・終礼を毎日行い情報共有を行っている	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			在り処が分からなかった職員が居たので共有した。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			決定後回覧を行っている。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	2		地域支援という面で弱いと感じる。方法を模索していく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	共有ノートなどを用意している。	非常勤の方にも参加・共有できる環境で行っていく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	6			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1		非常勤の方にも参加・共有できる環境で行っていく。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		非常勤の方にも参加・共有できる環境で行っていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	1		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	2	担当制ではない為、当園では適切な設問ではない？	現場リーダーが中心となって参加出来るように日時を設定している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	4	機会が殆ど無い。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			非該当	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			非該当	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3	具体的な事は出来ていない。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	図れている所とそうでないところがある。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4	機会が殆ど無い。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5	機会が殆ど無い。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	3		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	2	専門的な知識が必要ではと感じる。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			そこまでの物かどうか判断できない。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	望まない方も多いので、難しい。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4		以前は行っていたが疎遠となっているので、イベントを通して再開していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			今まで行えていなかったが、最近行った。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1		内容が変わる事もある事を考慮して、飲食提供時には必ず確認をしている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		委員会を設けている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		委員会を設けている	計画書にも掲載しているが、定期的に身体拘束について話し合っている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	ふあいんど千種園		
○保護者評価実施期間	2024（令和6）年9月10日 ～ 2024（令和6）年9月23日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2024（令和6）年9月5日 ～ 2024（令和6）年9月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024（令和6）年10月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多彩なプログラムを提供している	当園独自で考案したオリジナルプログラム「ふあいんど100」の活用により、子どもたちに多種多様な経験を得る機会を提供している。	定期的にプログラム内容を更新し、いつの時代にも必要とされる核となる分野と、時代に合わせて経験しておくべき分野を網羅するように工夫を重ねていく。
2	丁寧なフィードバックによる高い満足度	SNSや広報の定期発行により、園全体としての取り組みを発進するとともに、連絡帳を活用して子どもたち一人ひとりの詳細を共有している。 また、保護者参加型のプログラムを提供するなど、子どもの園内での活動を知る場を提供している。	園からの情報発信だけでなく、保護者が求める情報を丁寧にくみ取ってフィードバックする体制を構築していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障がいのない子どもと活動する機会が少ない	外出プログラムは人気であるものの、子どもの安全を重視するため第三者との交流には慎重になっている。 夏祭りなど近隣の協力を得て行うイベントも用意しているが、大規模なイベントは安全確保のために開催回数が限られている。	近隣地域との交流の場を増やすべく、小中規模の交流イベントを企画していく。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表:令和 6 年 10 月 1 日

アンケート期間:令和 6 年 9 月 10 日～令和 6 年 9 月 23 日

事業所名

ふあいんど千種園

保護者等数(児童数) 24

回収数 17

割合 71 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16			1		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	12	3		2		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	12	1		4		
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	15			2		
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	16	1				
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	3	1	7		
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16			1		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	16			1		
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16	1			成長に合わせて都度丁寧なアドバイス、相談に乗っていただき感謝しております。	これからも保護者様とお子さんの事で一緒に考えていける事業所でありたいと思います。
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10	2	1	4		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15		1	1		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	15	1	1			
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	14			3		
	14	個人情報に十分注意しているか	13	1		3		
非常時 等の 対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	13		1	3		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14	2	1			
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	17				いつも楽しく通わせて頂き感謝しております	これからも継続していけるように職員一同励みます
	18	事業所の支援に満足しているか	16		1			

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 6 年 9 月 30 日

公表:令和 6 年 10 月 1 日

事業所名 ふあいんど千種園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2		個室が無いので、事務所や相談室が個室変わりとなっている。
	2	職員の配置数は適切である	2	4	利用児の特性に合わせて配置は考えている	足りないと感じる日がある。 送迎時に添乗が必要な日がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	ほぼバリアフリーではある	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		朝礼・終礼を毎日行い情報共有を行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			在り処が分からなかった職員が居たので共有した。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			決定後回覧を行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	共有ノートなどを用意している。	非常勤の方にも参加・共有できる環境で行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1		非常勤の方にも参加・共有できる環境で行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1		非常勤の方にも参加・共有できる環境で行っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	2		ガイドラインについて、職員間で共有していく。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	2	担当制ではない為、当園では適切な設問ではない？	現場リーダーが中心となって参加出来るように日時を設定している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	4	2		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			非該当	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	4		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			非該当	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4	殆ど無し	見学などは行っており、利用したいと考えているが、日時が合わなくて叶わない事が多い。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	3	3		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2	専門的な知識が必要ではと感じる。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	35	個人情報に十分注意している	6			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4		以前は行っていたが疎遠となっているので、イベントを通して再開していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			今まで行えていなかったが、最近行った。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		委員会を設けている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		委員会を設けている	計画書にも掲載しているが、定期的に身体拘束について話し合っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1		内容が変わる事もある事を考慮して、飲食提供時には必ず確認をしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			